

異常気象に対する市の対応について

大森 貴之



〔質問〕市内を流れる1級、2級河川を伺う。

〔答弁〕〔建設課長〕1級河川は白石川や斎川など計11河川ある。2級河川はない。

〔質問〕準用河川、普通河川はどのぐらいあるのか伺う。

〔答弁〕〔建設課長〕市管理準用河川の指定はなく、普通河川は沢端川や館堀川など52河川ある。

〔質問〕気象庁の防災気象情報を受信した際、市民への通達手段を伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕危機管理課から緊急速報メールを配信する。同時に総務課を中心に、しろいし安心メールな

どのSNSを用いて情報発信を行う。

なお、スマートフォンなど無い方々へは避難対象地域の公民館へ、以降各自治会、消防団、自主防災会などを通じて情報伝達される体制を構築している。

〔質問〕市が行うしゅんせつ作業、護岸工事などの具体的な例を伺う。

〔答弁〕〔建設課長〕令和2年度から堆積土砂撤去を計画的に実施している。今後は過去に災害が発生した河川などを中心に土砂堆積状況を注視しつつ、計画的に実施していく。

〔質問〕市道に付帯する側溝等の清掃を市が行うべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔建設課長〕高齢化や人口減少は十分認識しているが、市内の

道路側溝等の延長は膨大で、市が全て行うことは極めて困難な状況である。地域の実情に応じた道路維持管理に努めていきたい。

〔質問〕堤防のかさ上げを検討してみたいのか。

〔答弁〕〔市長〕内水氾濫対策として堤防かさ上げはその一つとして考えられるが、技術的課題や事業費なども総合的に精査しながら、その必要性・実現性について検討したい。

〔質問〕今後市として、どのように防災気象情報を生かしていくのか見解を伺う。

〔答弁〕〔危機管理課長〕指定避難所の開設準備、風水害時における職員参集の基準を定めた「風水害による白石市職員体制別任務表」を改正している。警報等の発表前でも早期避難・予防的避難を行う方々の受け入れに適切に対応する。

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。

本市の職員について

伊藤 勝美



〔質問〕本市における直近数年間の採用試験の受験者数、倍率は減少傾向となっているが、採用の充足状況および現状の人材確保に関する市の課題認識についての見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕白石市定員適正化計画に基づく令和8年4月1日の目標職員数が356人であるが、4月1日現在の職員数は350人となっている。

退職者が多く正規職員を配置できない場合などには、必要に応じて会計年度任用職員を配置しているが、組織全体として正規職員が

不足しているものと認識している。

人材確保に関する課題としては、公務員志望者が減少傾向にある中、自治体間の採用競争が激しくなっていること、若年層の退職者が増加傾向にあること、また職員の年齢構成が平準化されておらず、特に30代後半から40代後半までの職務上の経験・知識のある職員が少ない状況となっており、適正な人員を確保することが喫緊の課題であると捉えている。

〔質問〕〔市長〕人材確保や職員定着の観点から、待遇改善や働き方の柔軟性の確保は重要な要素と認識をしている。本市では、これらの喫緊の課題に対し、まずはできる取り組みとして、テレワークの試行、市内在住者の住居手当の5千円上乗せを実施しているほか、昨年度に採用された職員提案に基づく時差出勤勤務の試行を実施している。

今後、国や一部の自治体で導入している週休3日制やフレックスタイム制度を含む他自治体での実施状況を注視しながら、職員の待遇・労働環境の改善に努めて取り組んでいく。

〔その他の質問〕

◎生成AIの活用推進について

◎中東情勢に伴う公共工事への影響について